

『エクリバン』

エクリバン社発行

昭和十年十月〜昭和十二年十二月（全十四冊）

第一卷第一号 昭和十年十月号 一日発行

— 創刊号 —

目次									
ジョイス、ジイド、デュアメル論	中野秀人	6	2						
詩人と大衆（詩人は群集と共に生活する）	萩原朔太郎	27	31						
恋愛詩百篇（*詩）	大木惇夫	32	67						
或る遠景（*小説）	尾崎士郎	68	72						
人生偽経（*小説）	新居格	73	77						
日本詩の語感	本莊可宗	78	82						
律格詩の問題	原一郎	83	93						
山猿娘（*散文詩）	萩原恭次郎	94	95						
赤ネクタイ									
書きたいことなど	榊山潤	96							
友情	中野秀人	97							
作家の立場（*再録）	大木惇夫	98							
趣味	佐多蟬矢	100							
想片	青野季吉	102							

現代支那文学の一断面

新しきアメリカ文学の基礎

エセーニンとダンカン

薄暮（*詩）——薄暮、もちくさ、ともしびを、銀

杏、昼、心象、夜の潮、暮春

可能不可能（*小説）

黒鵝（*小説）

時評

レイヤム・オーフレヤティール作、本間立也訳

在日本朝鮮人の演劇（演劇時評）

小説評

時評

編輯後記

奥付

第一卷第二号 昭和十年十一月号 一日発行

目次									
世界文明下に於ける日本芸術	村松正俊	6	2						
自由詩の発展とその帰趨——昨今の韻律問題	穴戸儀一	18	31						
を中心として									
聖歌隊（*詩）——林の歌へる、夜鳴く鳥の歌									

へる、月の歌へる、波の歌へる、緑の星の

歌へる、聖歌隊)

大手拓次の詩と人物

岸田国士と小説

ねこどりの眼、雷気 —南洋旅行記より抜萃—

瓦斯管、化石 (*散文詩二篇)

黒い象形の文字 (*散文詩)

赤ネクタイ

発展の衝動

迷信

或る質疑

余白に

ジュウル・シユベルヴィエル作、堀口大学訳

ヤン・ネルダ作、大木惇夫訳

吸血鬼

文学の主題性について

中野秀人氏個展評

第三回油絵個展目録

遺稿 (*詩—秋、遠い枝枝のなかに、恋人を抱く

空想、西蔵のちひさな鐘、さびしいかげ、雪が待つ

てみる、髪、道化服を着た骸骨、落葉のやうに)

遺稿 (*詩—風、断章、みたま、冬、火花、梧桐、

自分、空、柿の木)

芸術時評

二科を見る (美術時評)

別の形態に就いて (演劇時評)

過渡期の舞踊 (舞踊時評)

詩とチャールナリズムの問題 (詩時評)

八木重吉その他 (詩時評)

『中央公論』記念号その他 (小説時評)

次号予告

温泉 (*小説)

一人の女 (*小説)

編輯後記

奥付

丸山定夫

麻上俊夫

勝承夫

草野心平

中野秀人

編輯部

大鹿卓

浅原六朗

藪田義雄

第一卷第三号 昭和十年十二月号 一日発行

目次

新方法論

世界宗教と民族宗教

アマランタ (*戯曲)

西欧に於ける Fairy と Elfes

檻樓の旗 —或は、無神論者の Elegy— (*詩)

寂寞の神経図 (*散文詩)

徒勞 (*小説) ドリウ・ラ・ロシエル作、本吉進訳

(*創刊号、前号目次)

赤ネクタイ

136 136 129 122 121 119 118 115 113 110
135 128 120 119 118 115 113

77 64 61 56 47 22 13 6 2
55 46 21 12 3

わが浪漫主義

ロマンチズムの情熱

閑筆

「絶望の逃走」に就て

ホワット・ナット

芸術時評

三つの作品（映画時評）

転形期の国語・詩の新体など（詩時評）

「面白くない」舞踊（舞踊時評）

秋の美術界展望（美術時評）

ことしの文壇及び作品一二（小説時評）

犠牲になつた女（*小説）

北原白秋生誕五十年記念白秋を歌ふ夕（*プログラム）

出現の前そして出発（*小説）

編輯後記

奥付

林房雄

浅原六朗

新居格

萩原朔太郎

佐多蟬矢

島津保次郎

遠地輝武

麻上俊夫

寄本司麟

青野季吉

村山知義

大木惇夫

藪田義雄

藪田義雄

藪田義雄

藪田義雄

78

78

79

80

80

82

84

87

90

96

97

98

109

110

134

134

日本民族性と新詩

沈鐘／曉闇／健忘（*詩）

（*創刊号／前号目次）

否定／貌（*詩）

相続税 喜劇（*戯曲）

ジョン・パーディと波

テイ・エフ・ポウイス作、足立重訳

新刊紹介（*梅津勝夫訳『近代音楽の概観』萩原

朔太郎『猫町』尾崎士郎『悪太郎』中原綾子

『悪魔の貞操』

赤ネクタイ

絵画論

国際ベルヌ條約を脱退すべし

鑽鮮花／鉋花／指／骨牌／襟足（*詩）

「悪しき血」より —遺稿—（*散文詩）

アルチウル・ラムボオ作、府川恵造訳

まだ生きてゐる

ゲーテの処世術

芸術時評

十二月の文壇（小説時評）

春さきの時代（詩時評）

先づ報告的に（音楽時評）

新刊紹介 人生劇場映画化さる！

深夜の運転手（*小説）

アパートの悲劇（*小説）

編輯後記

原一郎

栗本芳雄

巽聖歌

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

向井長民

46

54

59

60

62

92

103

101

101

102

102

101

101

102

101

110

116

118

118

115

115

115

120

123

126

128

第二卷第二号 昭和十一年二月号 一日発行 (通巻5号)

第二卷第三号 昭和十一年三月号 一日発行 (通巻6号)

目次

詭弁を戒む — 若き詩人のために —

萩原朔太郎

6 2
3 3

文学の歪形 — 詩及詩人の仕事について —

川路柳虹

11 11
15 10

哈爾賓 (*小説)

中野秀人

16 16
74 74

(*前号、前々号目次)

太陽のない日 / 關ひ / 唐手 / 母珊瑚 / 途上 /

南方研作

75 75
76 76

たそがれ / 菜苑にて (*詩)

澤木隆子

81 81
83 80

レンズ / 風邪 / 遠国 (*詩)

大木惇夫

84 84
85 85

エスカリエ

萩原朔太郎

85 85
86 93

病床妄語

大木惇夫

86 86
93 93

中野秀人君へ

竹田敏行訳

86 86
93 93

美しい奥さん (*小説)

ヘルマン・パール作、竹田敏行訳

芸術時評

音楽と文学 (音楽時評)

唐端勝

94 94
96 96

あるテキスト (詩時評)

巽聖歌

96 96
98 98

当世結婚気質 (*小説)

井上友一郎

99 99
109 109

第三の逃亡 (*小説)

藪田義雄

110 110
141 141

編輯後記

藪田義雄

142 142
141 141

目次

芸術時評

演劇戯曲の批評家 (演劇時評)

三好十郎

2 2
3 3

批評の危機 (文壇時評)

鈴木幸夫

9 9
15 15

不安な詩属以下 (詩時評)

平野威馬雄

15 15
17 17

擬古主義の返り咲き その他 (詩壇時評)

佐藤一英

18 18
19 19

新喜劇界の展望 (レビュー時評)

土肥俊三

19 19
25 25
75 75

道徳の頽廢

村松正俊

26 26
36 36

美と愛と創造の芸術

村上俊夫

37 37
50 50

詩の擁護 — 文壇人の詩への無関心に就て —

原一郎

51 51
59 59

密林抄 / 甕列 (*詩)

中群節二

60 60
62 62

彼女 / 心 / 夢 / 酔ひどれ (*詩)

上沼利三

63 63
66 66

(*前号、前々号目次)

エスカリエ

中野秀人

67 67
68 68

知識の弁

大木惇夫

69 69
75 75

『出発の前そして出現』に就て

佐藤惣之助

70 70
77 77

大黒河の声

與田準一

76 76
82 82

自分の途上

内田勇三郎

78 78
82 82

音をきくと色の見える話

内田勇三郎

82 82
82 82

ポウル・ヴァレリー

エドマンド・ウイルソン作、鈴木幸夫訳

虚を衝かれることなど 文芸雑誌帳

「貧時交」評

二人分の契約（*小説）

ガストン・シエロオ作、本吉進訳

奇跡（*小説）

編輯後記

奥付

首（*デッサン）

巡錫暮景／闇／偶／偶／偶／偶（*詩）

編輯後記

奥付

寄本司麟

平野威馬雄

中野、大木

局清

古谷綱武

本間立也

中野、大木

本吉進訳

中野、大木

83
95
98

92
95
98

96
98

99
103

104
110

112
113

112
113

112
113

112
113

第二卷第四号

昭和十一年四月号 一日発行（通巻7号）

目次

埃及脱走（*戯曲）

（*新協劇団三月公演夜明け前第二部、前号目次）

囚人（*詩）

月光詩篇 — 黒川早太の心境記録 —（*小説）

エスカリエ

現象論の意義

『月光詩篇』ノオト

表情 — 私は顔のことを言つてゐるのではない —

物のははれの感じ方

中野秀人

堀口大學訳

高橋丈雄

高橋丈雄

十辺一

高橋丈雄

高橋丈雄

芝山恵三

内田勇三郎

6
2
3

43
42

44
51

52
99

102
102

104
110

105
110

104
110

105
110

105
110

105
110

第二卷第五号

昭和十一年五月号 一日発行（通巻8号）

目次

生活と文明との融合

女（*デッサン）

旅中詩篇 宿で／釣橋／山の子供／途（*詩）

街詩集 街角／歩道／街路樹／噴水／ガード下／

交番／飾窓／広告気球／橋／ポスト（*詩）

雪景（*散文詩）

朴の花（*詩）

続自分の途上

プロ文壇遠望 — 作家クラブと、森山、島木 —

断想 曲線と直線

悪／雨中感懐／悲心（*詩）

青龍梅／白樫／藪柑子（*詩）

白虹／氷結（*詩）

雨の中の猫（*小説）

村松正俊

中野秀人

岡本潤

長田恒雄

小野十三郎

平野威馬雄

伊井龍吉

永瀬清子

岡崎清一

水上不二

中群節二

大木惇夫訳

大木惇夫訳

大木惇夫訳

大木惇夫訳

6
12
3

13
12

14
16

17
21

22
23

24
27

28
29

30
33

34
37

38
41

42
43

44
45

44
45

44
45

46
50

46
50

46
50

田舎くらし（*小説）

ガブリエル・ミロー作、花野富藏訳

五つのネガティブ（*小説）

藪田義雄

擬態（*小説）

本吉進

編輯後記

中野・大木

奥付

51
58
59
66
67
79
80
80

日本文明と西洋科学
悠かな詩的認識の石亭 『北園克衛「鯉」の
為めのアンテールメイド』

村松正俊

続プロ文壇遠望

平野威馬雄

（*前号目次）

伊井龍吉

少年工（*デッサン）

寄本司麟

編輯後記

中野・大木

奥付

60
66
67
71
72
78
79
80
80

第二卷第六号

昭和十一年六月号 一日発行（通巻9号）

第二卷第七号

昭和十一年七月号 一日発行（通巻10号）

目次

がらがら蛇に喰はれた男の話 — 短篇集 —

中野秀人

2
3
6
20

芸術論 — 第一部 —

ハーバート・リイド著、足立重訳

21
35

優れたる西欧

ユウヂン・ヂョラス著、鈴木幸夫訳

36
41、
71

瘡痍咒符韻（*詩）

平野威馬雄

42
44

誰でもが病まし／＼明日になれば／＼棘／＼蝻

巽聖歌

45
47

とりで

雑感

殺人犯を掴まへろ！

ラムボウの現代的意義

妻から見たチエホフ

小山東一
本吉進
大島博光
杉本良吉

48
49、
78
49
54
53
59

目次

著者の悲哀（或る季節外れの詩人から）

萩原朔太郎

6
11

芸術論（承前）

薔薇の咲く頃

ハーバート・リイド著、足立重訳
春山行夫

12
27
28
32

（*前号、前々号目次）

リリシズムと主知的なリイド

『大木惇夫
——恋愛詩百篇』を読んで

平野威馬雄

33
34
39

岩

ラムボーについて

帝院改組其の他

「愛撫の園」より（アラビヤ古詩）

岡本潤
中野秀人
フランツ・ツッサン作、川路柳虹訳

40
41
41
49
42
45

草野君の詩集『母岩』

春への招待に答へて — 詩集のためのエッセー — 庄原照子

(※前号、前々号目次)

枝の祭(※詩)

白／火(※詩)

カルルとの夜(※詩)

小市民の日曜日(※小説)

編輯後記

奥付

土方定一 46
庄原照子 50
安部宙之介 54
岡本彌太 58
草野心平 61
大木惇夫 64
73

53
50
57
60
63
73

第二卷第九号 昭和十一年十月作品号 一日発行

(通卷12号)

目次

巻頭言

馬(※詩)

ピリカとその兄弟(※小説)

火の扉(※小説)

働く婦人の顔(※デッサン)

長篇 人工地獄(第一回)(※小説)

断想私語

青年論者に与ふ

編集後記

奥付

表紙

中野秀人 1
藪田義雄 2
中野秀人 4
本間立也 17
寄本司麟 27
高橋丈雄 28
菅井北夫 28
水橋葉吉 33
藪田義雄 40

中野秀人 4
中野秀人 16
本間立也 26
寄本司麟 39
高橋丈雄 39
菅井北夫 33
水橋葉吉 39
藪田義雄 40

第二卷第八号 昭和十一年九月革新号 一日発行

(通卷11号)

鉄板庄延作業(※スケッチ)

残闕集(※詩)

序言

宗教と文学

T・S・エリオット著、小山東一訳

人工地獄(第一回)(※小説)

伊東屋の画友展をみて — プロ美術雑感 —

エクリバン総目次

エクリバン強化

編輯後記

高見耿太郎 1

高橋新吉 2
三好十郎 2
2
3
27

高橋丈雄 13
伊井龍吉 13
26
27

中野秀人 36
中野秀人 39

中野秀人 28
中野秀人 35

中野秀人 13
中野秀人 26

中野秀人 13
中野秀人 26

中野秀人 13
中野秀人 26

中野秀人 13
中野秀人 26

中野秀人 13
中野秀人 26

第二卷第十号 昭和十一年十一月号 一日発行

(通卷13号)

目次

巻頭言

山頌（*詩）

言語と西洋文明への統一

跨橋鬼／啾啾／白李／偶／偶（*詩）

通信 — 博多より —

うめぐさにひとごと

不安と現代的な生活

時計と黒猫 散文詩風なメルヘン

宙に迷った礼服 — 水郷挿話 —

編集後記

奥付

表紙

女性と今日の問題 — 社会性なき女性 —
（*「エクリバン」九、十、十一月号目次）

人工地獄（第三回）（*小説）

編集後記

奥付

水橋葉吉

高橋丈雄

中野秀人

31
〜
37

37
〜
47

48

48

48

村松正俊

大木惇夫

村松正俊

平野威馬雄

中野秀人

高橋丈雄

水橋葉吉

藪田義雄

長谷川浩三

藪田

1

2
〜
3

4
〜
13

14
〜
19

20
〜
21

21

22
〜
26

27
〜
31

32
〜
39

40

40

第二卷第十一号

昭和十一年十二月号

一日発行

（通巻14号）

目次

巻頭言

敵 — 喜劇 —（*戯曲一幕）

癩癩

移転／亡娘／山莊／雨の灯／日蝕／金堂附

近（*詩）

ロツパ一座

表紙

中野秀人

中野秀人

藪田義雄

岡本弥太

三好十郎

1

2
〜
22

23
〜
25

26
〜
29

30

30

エクリバン社版『エクリバン』について

欧文題号は「FORIVAIN」。昭和十年十月創刊。翌昭和十一年十二月発行の第二巻第十一号まで計十四冊。毎月一日発行。昭和十一年八月号のみ刊行されていない。菊版。発行所エクリバン社、発行人藪田義雄。編輯人も藪田義雄だが、第二巻第三号から第八号の間のみ大木惇夫・中野秀人。発行人および編輯人住所は「東京市豊島区目白町二ノ一五六九」、発行人住所のみ第二巻第三号から「東京市神田区旅籠町一ノ一〇」となり、第二巻第八号から「東京市外砦村大蔵一八三五」。編輯人住所は第二巻第九号から「東京市外砦村大蔵一八三五」。

印刷所は昭和印刷株式会社(創刊号)、眞興社(第二巻第三号)、株式会社文成社(第二巻第四号)。

創刊号は全一四四ページ。第二巻第三号から漸減し、翌九月刊行の第二巻第八号で「九月革新号」と銘打つが、実際には全四十ページの薄さとなっている。定価五十銭、第二巻第三号から三十五銭、第二巻第八号から終刊まで十五銭。表紙デザインおよび本文カット、中野秀人。九月革新号から同人制となる。同人は、三好十郎、中野秀人、高橋新吉、高橋丈雄、小山東一、藪田義雄、村松正俊、村山知義、伊井龍吉、大木惇夫。

大妻女子大学図書館・日本大学総合学術情報センター所蔵原本を参看した。

(村田裕和)